

学級活動(1)における授業づくりのポイント

1 学級活動(1)における主眼について

学級活動の主眼は、二つの観点から書きます。一つは、内容【思考力、判断力、表現力等】です。二つは、合意形成を図るための主な活動や話し合いの観点を書きます。

○主眼の作り方の例

主眼1 ……ために、■■■について話し合い、…合意形成をすることができるようにする。

2 □□(話し合いの観点)を基に、意見を～したり、～したりすることができるようにする。

【第3学年議題「係をさらに活発にしよう」の主眼1の例】

(1) 内容を焦点化する (小学校学習指導要領 解説 50 ページ一部抜粋)

「(1)-イ 学級内の組織づくりや役割の自覚」から

- ①学級生活の向上のため、児童が主体的に組織をつくり、役割を自覚しながら仕事を分担して、協力し合い実践すること。
- ②係活動において、学級を楽しく豊かにするために必要な係を出し合い、合意形成によって組織をつくっていくことである。

【焦点化された主眼】

学級生活の向上のために、係の改善について話し合い、合意形成を図って組織をつくりかえることができるようにする。

(2) 内容を具体化する (小学校学習指導要領 解説 50～51 ページ一部抜粋)

①学級生活の向上を具体化する

組織が機能し、活発な活動が展開されることにより、学級生活の充実や向上を図ることができる。

②組織を改善する視点を具体化する

児童一人一人の役割や所属する組織を固定せず、柔軟で弾力性に富んだ組織になるよう工夫することも重要である。

【具体化された主眼】

係がさらに機能し、活発な活動を展開できるようにするために、係の改善について話し合い、合意形成を図って組織をつくりかえることができるようにする。

(3) 内容を明確化する (小学校学習指導要領 解説 78 ページ一部抜粋)

○「発達の段階に即した指導のめやす」から話し合い活動の指導内容を明確化する

理由を明確にして意見を言えるようにしたり、異なる意見も受け入れたりして、楽しい学級生活をつくるために合意形成を図ることができるようにする。

【明確化された主眼】

係がさらに機能し、活発な活動を展開できるようにするために、係の改善について話し合い、理由を明確にして意見を出し合いながら合意形成を図って組織をつくりかえることができるようにする。

2 学級活動(1)における議題の指導計画について

学級活動(1)の議題では、活動への期待感をもつ「事前の活動」、活動への期待感と話し合って決まったことへの納得感を高める「話し合い活動」、実践を振り返り自己有用感を味わう「事後の活動」といった三つの活動を大切にします。

種	内容	具体例 (第3学年議題「係をさらに活発にしよう」)
事前	問題を発見して議題を決定し、話し合うことについて考えたり、情報を収集したりして、活動への期待感をもつ。	係の現状から問題 (係を頑張っているけど、まだ十分ではない) を発見し、課題の解決方法 (係の仕組みと構成をつくりかえる) を考え、係が改善した後の学級生活への期待感をもつ。
話し合い	自他の意見を比べたりまとめたりして合意形成を図り、活動への期待感と話し合って決まったことへの納得感を高める。	係に関する今の仕組みと新しい仕組みの原案を比較して仕組みをつくりかえる。さらに、決まった新しい仕組みを基に、係の構成をつくりかえることによって期待感と納得感を高める。
事後	話し合いで決まったことを基に、自分の役割や責任を自覚して実践し、一連の活動を振り返って、自己有用感を味わう。	係の新しい仕組みと構成で活動を行い、自分が所属する係での活動について自己評価をしたり、友達からの称賛を得たりすることで、自己有用感を味わう。

3 学級活動(1)における一単位時間の過程について（話し合い活動において）

学級活動(1)の学習過程では、提案理由や話し合いの観点を意識しながら、自他の意見を出し合ったり比べ合ったりして合意形成を図る問題解決的な学習過程を大切にします。

○一単位時間の過程

段階	学習活動と予想される反応	具体的な支援 ※ICT活用
導入	<p>1 提案理由を聞き、本時話し合うことを確かめ、本時話し合いのめあてを確認する。</p> <p>今のままでは□□（現状・問題）だから、話し合って□□を決めよう（課題）。そうすればもっと□□（展望）になるよ。</p> <p>（本時のめあて） □□について話し合おう。</p>	<p>○話し合いへの意欲を高めることができるように、提案理由を確認する場を設定する。</p> <p>事前に提案理由には「現状と問題」「課題」「展望」の要素を含むよう支援する。</p>
展開	<p>2 自他の意見を出し合ったり比べ合ったりして合意形成を図る。</p> <p>話し合いの観点は、次のようなものが考えられる。</p> <p>□目的性：目的や提案理由に合っているのか</p> <p>□相互性：自分にとっても友達にとってもよいか</p> <p>□実現性：自分たちだけで実現できるか</p> <p>解決方法A ← 比べ合う → 解決方法B</p> <p>折り合いをつける</p> <p>解決方法A+B 解決方法C 解決方法B'</p> <p>解決方法Aがよいと思っていたけれど、みんなで話し合ったことで、よりよい解決方法になったよ。</p>	<p>○司会グループを中心に自分たちで話し合いを進めることができるように、司会原稿を共有し、誰でも自由に閲覧できる場を設定する。</p> <p>○自他の意見を比べ合うことができるように、事前の活動でつくった自他の考えを共有し、いつでも自由に閲覧できる場を設定する。</p> <p>○よりよい解決方法を見いだすことができるように、少数意見も尊重しながら折り合いをつけて互いに納得できる考えを話し合う場を設定する。</p>
終末	<p>3 本時の話し合いで決まったことを確認し、本時の話し合いを振り返る。</p> <p>決まったことは、・・・すること。</p> <p>振り返りの観点は、次のようなものが考えられる。</p> <p>□納得感：話し合って決まったことに納得できたか</p> <p>□期待感：実践に向けた期待感が高まったか</p>	<p>○話し合いで決まったことを確認するために、板書を写真に撮って共有する場を設定する。</p> <p>○本時の話し合いを振り返ることができるように、自己評価活動を設定する。</p>

4 学級活動(1)における ICT の活用について

学級活動では、「話し合い活動の板書」、「実践中の写真や動画」、「振り返り」を学習履歴として蓄積していきます。そして、これらの学習履歴を以下の三つの機能を用いて活用します。

- 共有機能…自他の考えを閲覧し、自分の考えを確かめたりつくりかえたりできるようにする。
- 保存機能…話し合いや実践における写真や動画を見返し、既有的経験を想起できるようにする。
- 編集機能…写真や動画の再構成や文章の付加により、実践を振り返ることができるようにする。

○ICTの活用の具体例

共有機能	保存機能	編集機能
<p>事前や話し合い活動で、自他の考えをいつでも自由に閲覧できるようにする。</p>  <p>例：3年議題「学級の旗をつくろう」の自他の考え</p>	<p>事後の活動（決まったことの実践）で、写真や動画を撮り溜めることができるようにする。</p>  <p>例：2年議題「巨大パズルをつくろう」の実践の写真</p>	<p>事後の活動（振り返り）で、再構成された写真や文章を自己の成長を実感できるようにする。</p> <p>やったこと 分かったこと 次挑戦したいこと</p> <p>・長なとび クラスでクラブ みんなでいっしょ</p> <p>・前とび 1人ずつと協力 にていっしょ</p> <p>かぎって仲間を助けていけるのがいい</p>  <p>例：5年議題「グランプリをしよう」の振り返りカード</p>